

「鹿が谷川の流を慕いあえぐように、神よ。私のたましはあなたを慕いあえぎます。私のたましいは、神を、生ける神を求めて渴いています。いつ、私は行って、神の御前に出ましようか。私の涙は昼も夜も私の食べ物でした。」(旧約聖書 詩篇 42 編 1-2 節)

先月はオリブも夏休みでしたので、2ヶ月ぶりに皆様にお会いすることになります。お元気で暑い夏を越されたでしょうか？夏のお疲れが回復しますように。

### I たましいの飢え渴き

詩編は有名なダビデ王を中心とした信仰の人々の神様への祈りの詩集です。そこには私たちの想像を超えた人生の起伏を経験した人たちの信仰の証言があります。鹿とは機敏で愛らしい生き物です。しかし、夏の日照りが続くと鹿は生きることができません。それは鹿が豊かな水を必要とする動物だからです。私たち人間も清らかな水を必要としますが、それ以上にたましいの渴きをいやす、神の愛、聖書のイエス様の言、聖霊の満たしが必要です。

皆様が今、魂の飢え渴きを感じているなら、あなたが真に人間らしく生きておられるに違いないと思います。人間には肉体的な健康や、お金で代表される物質的必要や、人間関係の必要があります。しかし、それらのものに満ちていても、人間が人間でいる限り、魂が神様の愛で満たされなければ必ず、飢え渴き、空しさを感じるのです。何とも言えない、埋めようの無い空しさこそあなたが人間であることの最大の証明なのです。

### II 涙を食べ物とする時

多くの人々は人生が順境の時には境遇や持ち物に満足してたましいの空しさや飢え渴きを自覚しないことが多いのですが逆境の時はその逆ではありません。その時こそ私たちの目が開かれます。実は、環境も、持ち物も良い人間関係すらわたしたちの空しさを埋めることは不可能です。あなたは涙を食べ物とするような人生を過ごしたことがおありでしょうか？将来もそんな人生の逆境とは無縁でしょうか？

### III 決して渴かない水 ヨハネ 4:13-14, 7:37-38

神様が人間を創造されたのなら、人間のこころの空しさを埋める恵みも神様が用意して下っているに違いありません。目があるのは光が存在しているからなのと同様です。イエス様の愛と真理の言、聖書を私たちが学ぶならたましいの飢え渴きは必ず満たされます。人間は他の動物と違い、こころの空しさを深刻に自覚する時があります。その時が聖書と出会う時なのです。

オリブの皆様方が人生の喜怒哀楽を通して魂の空しさを経験し、聖書の言、キリストの愛と救い、希望と確信に満ちた神様の言を受け入れる経験をする時あなたの人間関係が変わり、人生が変わっていくのです。聖書は言います。「苦しみに会ったことは、私にとって幸せでした。私はそれであなたのおきてを学びました。」(詩編 119:71)

逆境を通し、あなたが神様の愛のおきてとイエス様の救いを経験されますように。